2007 年 11 月 1 日

中国の石油製品価格はなぜ引き上げられないか

国際原油価格は 90 ドル/バレルを超えたにも拘らず、中国の石油製品は依然として値上げされていない[1]。10 月までの北京市におけるガソリン（オクタン価 97）の価格は 5.33 元/リッター（約 80 円/リッター、1 元＝15 円で換算）であり、5 月から変わっていない。石油製品が値上げされない最大の理由は、今年の消費者物価の上昇である。消費者物価指数は 1～9 月には対前年同期比 4.1%上昇し、今年全体では 4%以上の上昇が見込まれている。このため、中国政府は国内石油製品価格に対する制限を続けていると解析されている。

中国共産党第 17 次代表大会のマスコミ向け発表会で、国家発展改革委員会の副主任、朱之鑫氏は石油製品価格の問題について、以下のことを述べた――石油製品価格の引き上げは 4 つの要素で決められる。第 1 は原油価格、第 2 は需給の状況、第 3 は企業の生産コストの変動、最後は社会の受け入れ能力である。

朱氏は世界の原油価格の変動が中国国内に与える影響は両面から見なければならないと説明した。まず、原油価格が大幅に上昇することにより、石油製品の生産コストが高くなり、石油精製業の利益は減るが、原油生産事業の利益は増える。次に、原油価格の上昇により、消費企業に対してコスト上昇圧力がかかるので、企業の省エネルギーを促進する。

朱氏の説明からは、中国のエネルギー価格体制の改革は停止あるいは後退したとさえ感じられる。その理由は、次の通りである。①国際石油価格は下がる可能性が小さく、国際的な需給状況はぎりぎりのバランスを取っている。②大部分の中国企業の生産コストと石油価格の関係は正相関で、石油製品価格の上昇は必ず他製品の価格を引き上げる。したがって、③上掲４つの条件を考慮すると、中国国内の石油製品の値上げは難しいであろう。

その場合には、低価格の石油製品により国内の石油消費がさらに増加し、世界のエネルギー需給状況の緊迫化をさらに促す。また、省エネルギー意識が薄くなり、環境問題が深刻していく。さらに、中国の石油製品、特にガソリンの消費増加は富裕層に対する優遇政策によるものであり、「調和社会」の実現や格差問題の解決とは違う方向を指し示している。

しかし、中国が市場経済方式を採用する世界経済の重要な一員であるとすれば、その石油製品価格制度は急ぎ改革しなければならないのではないか。そして、その方向は次のようなものではないか。まず、石油製品の国内価格と国際価格を連動し、現在の政府定価方式を完全に放棄する。次に、石油製品の卸市場を開放し、中国石油と中国石化による現在

[1] 11 月 1 日から石油製品の価格を調整された。ガソリンは 1 リッター当り 0.4 元、軽油は 1 リッター当り 0.46 元が値上げされた。

の独占状況を打破する。最後に、石油の輸出入を真に自由化する。

（エイジアム研究所 首席研究員　張 継偉）